

福島県ふたば医療センター附属病院

病院年報

2019 年度



目次

	挨拶	p 1
	病院理念と基本方針	p 2
I	病院の現況	
	1 病院概要	p 4
	2 施設基準	p 6
	3 沿革	p 7
	4 病院組織図・配置図	p 8
II	診療実績（2019 年度年間統計）	p 10
III	活動実績	
	1 部門報告	p 13
	2 委員会活動	p 26
	3 地域貢献	p 28
	4 教育・学術研究	p 32
	5 主な行事・視察・来訪	p 36
IV	今後の目標と展望	p 42

挨拶

震災そして原発事故発生から8年。環境除染などによって避難指示区域の面積は事故発生直後のおよそ3割程度まで減少しました。これに伴い、双葉郡の人口もおよそ1万3千人まで増加しています。診療所も少しずつですが再開しています。しかしながら、一般病床をもつ医療機関は当院を除いて全て閉鎖したままです。

当院は二次救急医療機関として救急患者への医療提供を主な役割としています。また、自治体が運用するものとしては全国初となる多目的医療用ヘリも導入されました。

2018年4月の開設以来、救急患者数は増加し続けており、2019年度は前年度と比較して約5割増えています。年齢別には50～59歳と80歳以上の二つのピークがあり、疾患別割合では損傷、外傷など外因性の疾患が最も多く、さらに町村別に見た場合に、県内の他の地域や県外の患者が4割近くを占めています。また、入院患者では80歳以上の著しい増加が認められています。これらは、交通事故や復興事業に関連した疾患が多いこと、そして高齢者の医療ニーズが増えていることを示唆しています。

住民の帰還が進むにつれて、様々な疾患を持つ高齢患者の医療ニーズが増大してきています。一方、双葉郡はまだまだ介護リソースが非常に乏しい地域です。このため、訪問看護などにより、病気のコントロールと重症化の予防に力を入れています。また、当院では廃用症候群や脳梗塞後遺症などを持つ患者へのリハビリテーションも提供しています。そして、住民の疾病予防、健康増進を目的として出前講座にも取り組んでいます。

2019年4月、福島第一原子力発電所が立地する自治体として初めてとなる大熊町の避難指示が一部解除されました。双葉地域では今後も避難指示が順次解除され、イノベーションコースト構想など大規模なプロジェクトが展開されます。帰還住民に加えて、復興事業を支える多くの皆さんが活動することとなり、医療ニーズの拡大と多様化が予測されます。

当院は、「住民が安心して帰還し生活できる」、「双葉地域で安心して働ける」、そして「企業が安心して進出できる」、この「3つの安心」をスローガンとして、スタッフ一丸となって皆様のご期待に応えて行く所存です。

ご理解、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

福島県ふたば医療センター附属病院
病院長 谷川攻一

【病院理念】

当院は地域住民や復興事業従事者の安心を医療の面から支え、双葉地域の復興に貢献します。住民等の健康を守る医療・信頼される医療をめざし、地域住民とともに歩みます。

当院はこの理念のもとに、以下を目標とします。

※ 双葉地域における当院の目標

- 二次救急医療をはじめとする双葉地域に必要な医療を確保し、次の「3つの安心」を医療の面から支える。
 - ① 住民が安心して帰還し生活できる。
 - ② 復興事業従事者が安心して働ける。
 - ③ 企業等が安心して進出できる。
- 双葉地域で二次救急を担う医療提供体制を整備することにより、近隣地域の二次・三次救急医療機関の負担軽減を図る。

この目的を達成するため、以下の方針で臨みます。

【基本方針】

1. 高い倫理観のもと、命と人権とプライバシーを尊び、患者さん中心の医療を提供します。
2. 近隣の医療機関との連携のもと、双葉地域の救急医療を担い、良質で安全な医療を提供します。
3. 地域住民や復興事業従事者が地域や在宅での療養を安心して継続でき、より健康に生活できるように支援します。
4. 医療機関や介護施設・事業者、町村と協働し、地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を医療面から支えます。
5. 職員一人ひとりが専門職としての誇りを持ち、医療の成果を県内、全国に発信します。

以下、具体的な活動内容です。

- 診療科（救急科・内科）による救急医療の提供（24時間365日対応）
 - ・ 一次救急、高度医療や専門医療を必要としない二次救急
 - ・ 休日夜間など地域の医療機関が開院していない時の急病
 - ・ かかりつけ医からの紹介
- 在宅・訪問医療
 - ・ 急性期治療終了後、在宅復帰に不安のある患者に対する支援
 - ・ 地域の医療機関からの依頼による訪問診療及び訪問看護
- 多目的医療用ヘリコプターの運用
 - ・ 患者・家族の搬送に加えて、医師・専門スタッフや医薬品・医療資機材などの航空機搬送により双葉郡等の地理的不利を解消する。
- 地域包括ケア推進の支援
 - ・ 町村や医療機関、介護福祉施設等と連携し地域包括ケア推進を医療の面から支える。
- 健康増進支援
 - ・ 健康教室や出前講座等を通じて、地域住民等の疾病予防や健康増進を支援する。
- 交流・研修事業
 - ・ 町村の医療保健担当や地域の医療スタッフ等との情報交換や事例検討会を通じて、地域のネットワークを強化する。

I 病院の現況

1. 病院概要

2019年度 病院概要（2019年4月1日現在）

(1) ふたば医療センター

センター長 谷川攻一
副センター長 野崎洋一（非常勤）
運営支援監 重富秀一（非常勤）

(2) ふたば医療センター附属病院

病院長（兼務）谷川攻一
副院長（兼）看護部長 児島由利江
薬剤部長 伴場光一

医師の勤務体制

日中 常勤医 2名

4～5名、夜間 2名（外科・内科非常勤医師）

福島県立医科大学からの支援
附属病院ふたば救急総合医療支援センター
同大学医学部講座、広島大学
JA 福島厚生連からの支援
その他の非常勤医師の支援

看護師 29名（うち自治法派遣等 7名）

派遣元内訳 東京都 2名
横浜市 2名
千葉県 1名
千葉市 1名
福島県内 1名

薬剤師 2名

臨床検査技師 2名

診療放射線技師 3名（うち自治法派遣等 1名）

派遣元内訳 横浜市 1名

管理栄養士 2名（うち自治法派遣等 1名）

派遣元内訳 横浜市 1名

理学療法士 1名
作業療法士 1名

- ① 診療科 救急科、内科
- ② 診療時間 救急医療 24時間365日対応
窓口受付 9:00~16:00
- ③ 所在地 双葉郡富岡町大字本岡字王塚817-1
電話(代表) 0240-23-5090
ファックス 0240-23-5091
- ④ 施設概要 構造・床面積: 重量鉄骨造 2階建て 3,860㎡
諸室: 病室30床(全個室、陰圧室2床)、外来診察室
3室、感染患者待合室(陰圧室)、救急初療室、高度処
置室、除染室、調剤室、リハビリテーション室、検査
室、CT室、X線室、厨房、デイルーム等
付帯施設 ヘリコプター離着陸施設

(3) 多目的医療用ヘリコプターの運用

- ① 委託業者: 中日本航空株式会社
- ② 受託機関: 福島県立医科大学
- ③ 基地病院: ふたば医療センター附属病院
- ④ フライトスタッフ:
 - ・ フライトドクター: 常勤医および
福島医大附属病院ふたば救急総合医療支援センター教員
 - ・ フライトナース: 当院看護師
- ⑤ 運行形態:
 - ・ 日中待機地: 当院ヘリポート
 - ・ 夜間駐機地: 福島県立医科大学附属病院(格納庫整備)
- ⑥ 役割:
 - ・ 双葉地域で発生した救急患者への対応
ドクターヘリの対象とならない比較的軽症の患者搬送
 - ・ 高度専門的な治療が行える医療機関へ(から)の患者および家族
の搬送
 - ・ 専門の医師、医療スタッフや医薬品、医療資機材の緊急搬送

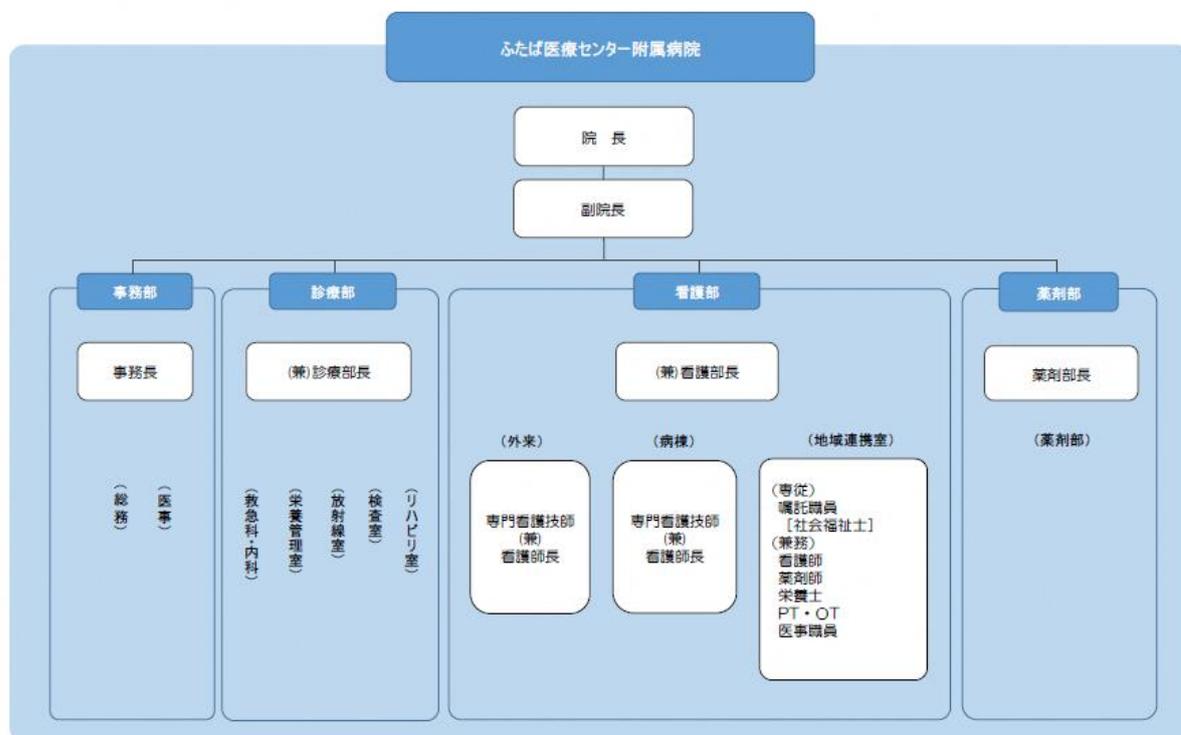
2. 施設基準

No.	点検を行った項目名 算定点数	算定開始年月日
1	特別入院基本料 算定点数：584点	令和元年10月1日
2	診療録管理体制加算 2 算定点数：30点	平成30年12月1日
3	療養環境加算 算定点数25点	平成30年4月1日
4	後発医薬品使用体制加算 1 算定点数：45点	平成31年4月1日
5	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅲ) 算定点数：100点	平成30年4月1日
6	運動器リハビリテーション料(Ⅲ) 算定点数：170点	平成30年4月1日
7	呼吸器リハビリテーション料(Ⅱ) 算定点数：85点	平成30年4月1日
8	入院時食事療法(Ⅰ)・入院時生活療養(Ⅰ) 算定点数：640円・500円	平成30年7月1日
9	遠隔画像診断 算定点数：180点	平成30年4月1日
10	C T 撮影及びMR I 撮影 算定点数：900点	平成30年4月1日

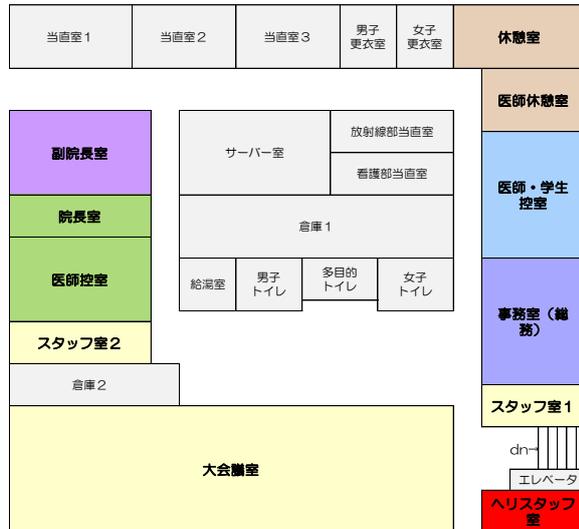
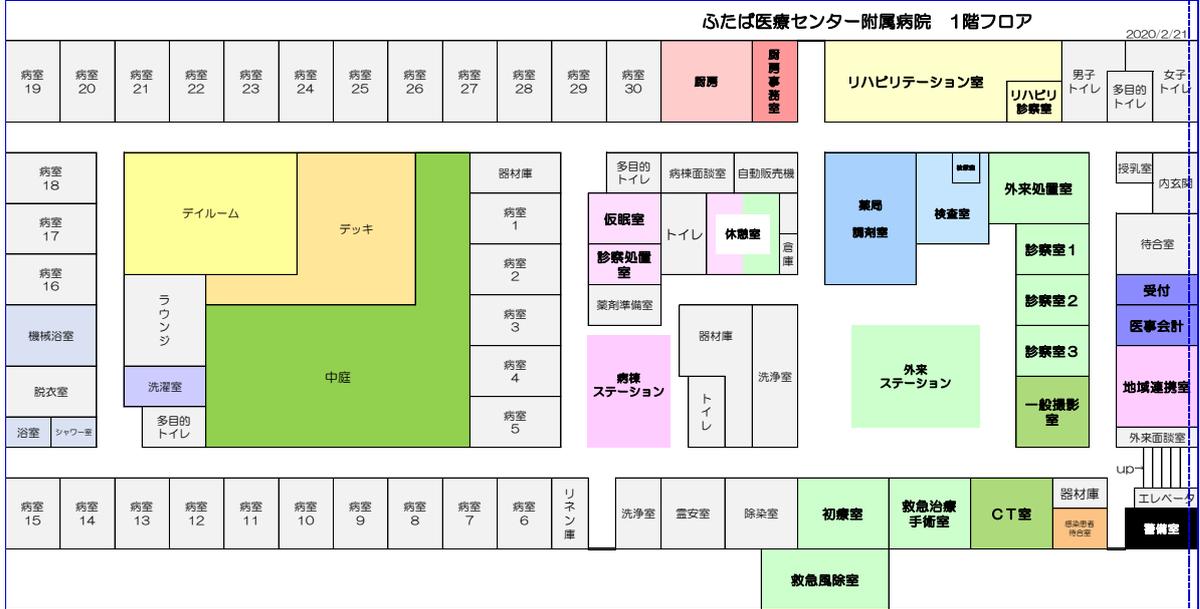
3. 沿革

- 2015年7月 『福島12市町村の将来像に関する有識者検討会』から提言
「二次救急医療等を担う医療機関の確保を進められるよう、国の参画のもと、広域的視点で福島県が地元市町村、関係機関と連携して協議の場を設け、各市町村における医療提供体制の整備方針を早急に議論し、具体化していく」
- 9月 『双葉郡等避難地域の医療等提供体制検討会』の設置
- 2016年2月 『双葉郡等避難地域の医療等提供体制検討会（第3回）』
「二次救急医療機関の先行整備」が急務であり早急な計画の立案、具体化が必要」と提言。
- 6月 『双葉郡等避難地域の医療等提供体制検討会（第4回）』
双葉郡に先行整備すべき二次救急医療機関の機能の大枠を提示。
- 7月 『双葉郡等避難地域の医療等提供体制検討会（第5回）』
県が整備主体となることを示す。
- 2017年6月 「ふたば医療センター附属病院」安全祈願祭・起工式
- 2018年4月 「ふたば医療センター附属病院」開院式（4月1日）
「ふたば医療センター附属病院」診療開始（4月23日）
- 2018年7月 訪問看護開始
- 2018年9月 多目的医療用ヘリコプター開始式（9月21日）
- 2018年10月 「多目的医療用ヘリ」運行開始（10月29日）
- 2019年5月 出前講座開始

4. 病院組織図・配置図



病院配置図

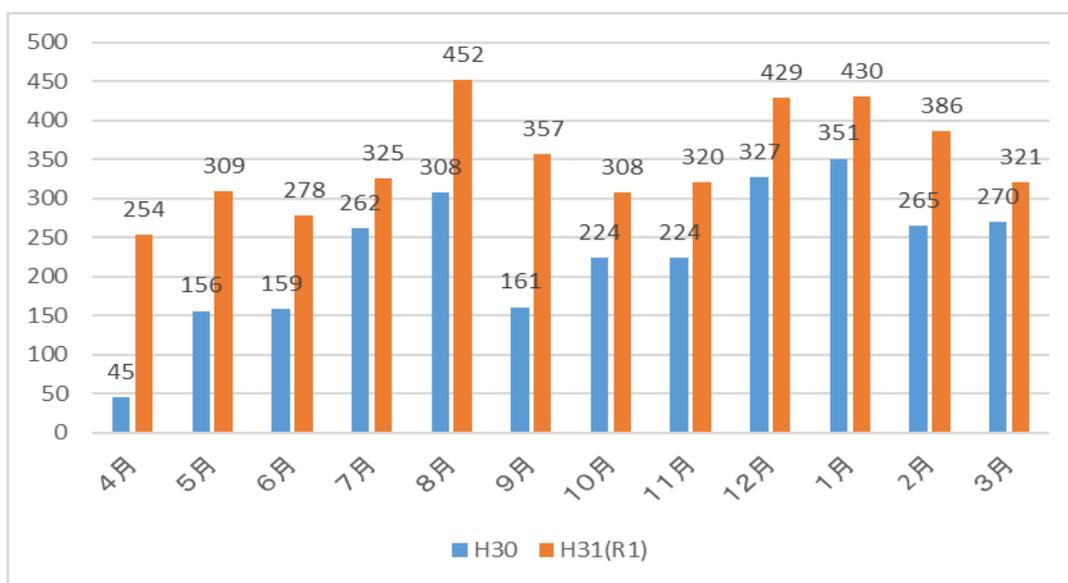


II 診療実績（2019 年度年間統計）

(1) 入院及び外来患者の推移

年度	区分	入院							外来						
		病床数	入院患者数		退院患者数	延入院患者数	一日平均入院患者	平均在院日数	病床利用率	新患者数	延外来患者数		一日平均外来患者	平均通院日数	
令和元年度	30	243	男	女	243	1,569	4.3	6.5	13.0%	2,173	4,169	男	女	11.4	1.9
			137	106								2,900	1,269		

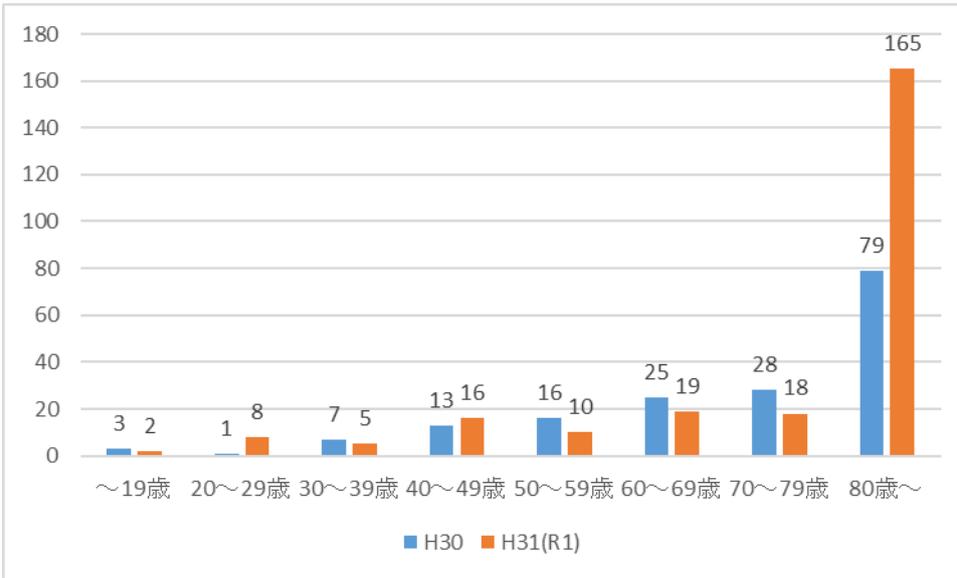
* 救急患者数は H30 年度の 2752 件に対して R 元年度は 4169 件と 1.5 倍に増加。受診患者数のピークは 8 月、1 月であり、夏場は熱中症、冬場は感染症の増加が起因している。



(2) 年齢別性別入院患者数

年度	区分	~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳~	合計
		令和元年度	男	0	4	4	10	5	8	7
女	2		4	1	6	5	11	11	67	107
計	2		8	5	16	10	19	18	165	243
%	0.8%		3.3%	2.1%	6.6%	4.1%	7.8%	7.4%	67.9%	100.0%

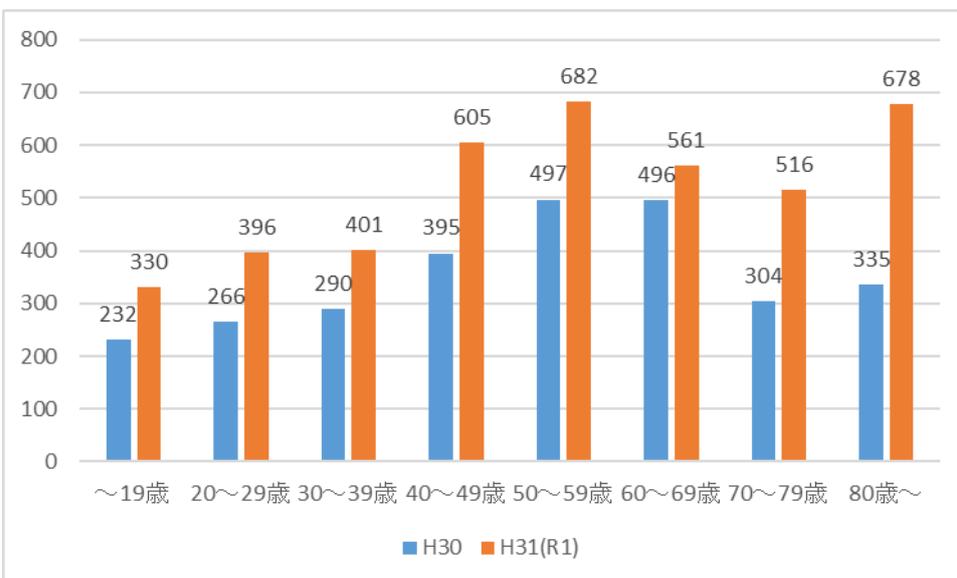
* 入院患者の年齢別内訳として、平成 30 年度と比較して、80 歳以上の入院患者数およびその割合が著しく増加。



(3) 年齢別性別外来患者数

年 度	区 分	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
		令和元年度	男	204	299	322	453	541	409	303
	女	126	97	79	152	141	152	213	309	1,269
	計	330	396	401	605	682	561	516	678	4,169
	%	7.9%	9.5%	9.6%	14.5%	16.4%	13.5%	12.4%	16.3%	100.0%

* 外来患者の年齢別内訳として、50～59歳および80歳以上の2つのピークがある。令和1年度は平成30年度と比較して、70歳以上の患者数およびその割合が増加。



(4) 訪問看護実績

氏名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
FE氏											5	7	12
MY氏	6	6	4	6	3	4	5	2	4	3	4	3	50
MA氏					1	8	9	9	5	7	5	5	49
MS氏	6	4	7	5	4	4	4	4	2		2	4	46
TK氏						3	9	5	5	4			26
計	12	10	11	11	8	19	27	20	16	14	16	19	183

(5) 地域医療連携の実施状況

① 他の医療機関等との相談、紹介、連絡、調整等

項目	令和元年度
紹介患者	138
逆紹介患者	101

② 多目的医療用ヘリコプター

令和元年度 (H31.4~R2.3)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
62件	7	6	3	4	2	9	9	8	2	7	2	3	62

③ 双葉地域の救急の状況

	救急搬送人数	管内搬送件数	管内搬送率	当院への 救急搬送件数	当院への 救急搬送率	病院着まで60 分以上の件数	備考
2017	711	199	28.0%	—	—	456	1~12月
2018	905	503	55.6%	444	88.3%	452	〃
2019	907	558	61.5%	512	91.8%	399	〃

Ⅲ 活動実績

1. 部門報告

【外来】 外来師長 志賀 美和

① 2019 年度の目標

- 1) アセスメント能力を高め、対象にあった看護を提供する
- 2) リスク感性を高めインシデントレポートの提出を促進し、具体策をたてること
が出来る。
- 3) 在宅療養支援の必要性を共有し、在宅支援を強化する
- 4) 救急・在宅グループ活動を推進し外来・病棟間の連携を深める
- 5) ひとりひとりが自己研鑽に取り組み成果を上げる

② 実績

外来目標について

- (1) アセスメント能力を高め、対象にあった看護を提供する
院内外の研修を通して、学びを深めることはできた。しかし、多数傷病者対応
時などは混乱する場面も見受けられた。知識を実践でどう活かすか課題であ
る。
- (2) リスク感性を高めインシデントレポートの提出を促進し、具体策をたてること
が出来る。
前年度と比較しレポート数は約2倍に増え、職員の意識付けにはなったと思
う。しかし、自主的にレポートを書く職員は少ない現状がある。カンファレン
スで振り返り、環境を作るとともに意識付けをしていく必要がある。
- (3) 在宅療養支援の必要性を共有し、在宅支援を強化する
訪問看護利用者のカンファレンスを行い、情報を共有できた。しかし再来患者
が少ない当院では外来患者を生活者にとらえる視点がまだ低く、課題である。
外来の少しの時間の中でも外来患者の意思決定を支えられるよう、かかわる必
要がある。
- (4) 救急・在宅グループ業務活動を推進し外来・病棟間の連携を深める
今年度から外来・病棟を1単位と考え、協力して業務を行った。互いの業務を
理解しコミュニケーションをとるよう努めた。ともに協力し業務を行えるよう
今後も連携していきたい。
- (5) ひとりひとりが自己研鑽に取り組み成果を上げる

院内・院外を通し研修に参加することができた。年度末のクリニカルラダーの発表会においては自己の看護を振り返り次年度の課題につなげることが出来た。

③ 1年間の経過と今後の目標

(1) 1年間の経過について

開院2年目となる2019年度は、周知もされ外来受診者数は増加し多岐にわたる疾患に対応した。電話相談件数も1000件以上と前年度を大きく上回った。訪問看護では看取り、癌患者の疼痛コントロールの症例も経験した。また専門医による糖尿病外来では、血糖コントロール不良患者の紹介もあり、自己血糖測定(SMBG)の導入も開始された。患者の背景から問題点を抽出し、目標をともに設定しながら行動変容を促す関りを行った。インシデントレポートなどの結果からマニュアルは適宜修正し、業務の調整を行った。

(2) 今後の課題

開院して2年たち、定期通院患者は少ないものの、入院してからの受診や受診を繰り返す症例がみられる。前年度も述べたが、救急外来のみの当院は、看護師も生活者にとらえにくい。しかし、当該地域はまさに高齢独居や老々夫婦が多く、療養の問題を抱える症例が多い。外来看護師として患者にどうかかわるかが課題である。

【病棟】 病棟師長 今福 晃子

① 2019年度の病棟目標

- 1) 受け持ち看護師の役割を發揮し、意思決定を支援します。
- 2) 安全な看護実践に向けて、インシデントレポート報告を推進し対策を定着します。
- 3) 多職種合同カンファレンスを強化し、在宅復帰を支援します。
- 4) 病院外救急グループ・地域ケアグループの活動を実践します。
- 5) 自ら考え行動し、看護の成果が出せるように自己研鑽します。

② 実績

(1) 受け持ち看護師の役割を發揮し、意思決定を支援します

入院後早期から意図的に患者・家族へ介入を行い、地域とも連携して意思決定ができるよう関わってきた。しかし、受け持ち看護師が勤務都合で不在が続くと、情報が共有できていない時があり、カンファレンスで十分な話し合いができず、対応の遅れがみられた。支援が継続できるように計画・記録の充実が必要だと感じている。受け持ち看護師が、責任を持ち看護が継続されるようにしていきたい。

(2) 安全な看護実践に向けて、インシデントレポート報告を推進し対策を定着します

レポート作成件数は、増えているが指摘をされてレポートを作成するメンバーも見受けられる。記載内容の分かりにくいレポートがあり、リーダーと内容を確認・修正後ファイルに保管し共有を図った。ファイルには、インシデントレポートと対策・意見を記載するコメント用紙を入れたが、記入するメンバーは一部で全員が事故防止に対する意識が高いとは言えない。毎週、インシデント検討のカンファレンスを実施し対策を話し合っているが、対策の定着に至っていない。レポートを見るだけでなく、同様のインシデントが起こりうると理解し、医療安全に対する意識を高めていきたい。

(3) 多職種合同カンファレンスを強化し、在宅復帰を支援します

退院支援・リハビリカンファレンスを定期的に多職で行い意見交換や情報共有ができた。患者を生活者として在宅生活を見据えた看護リハビリの実践、退院調整会議にも多職種で参加し、準備を整え退院につなげられた。看護計画を立案し看護リハビリを実施しているが、運動機能療法士が助言を行い、個別性のある看護リハビリを実施継続できるように強化していきたい。

(4) 病院外救急グループ・地域ケアグループの活動を実践します

リハビリテーションの健康教室に同行し、看護の視点で参加者の質問対応を行った。当院の役割をアピールし地域に周知することで住民に安心を与え受診・入院患者が増加している。

他部門の健康教室に同行しているが、看護部主体の参加ができるように準備が必要である。

多数傷病者訓練等に参加し災害時の対応、役割について振り返りができ、災害対策委員を中心に院内マニュアルが完成した。

(5) 自ら考え行動し、看護の成果が出せるように自己研鑽します

研修に積極的に参加しているが、伝達講習が継続できなかった。各自で自己学習をしてもアセスメント力にメンバー間で差が生じている。診療域が広いため、継続して研修参加を促し看護力を上げていきたい。

③ 1年間の経過と今後の目標

(1) 1年間の経過

開院2年目となり、定期的にマニュアルを修正し、体制強化を図り看護力の向上に努めた。新卒の入職者2名を迎え入れ、リーダーを中心に教育を進めてきた。病棟では、経験できる技術に限られるため、外来や他の県立病院に実習を依頼し技術習得や他院の看護展開を学んできた。今年度は、外来・病棟各2名(4人夜勤)夜勤から3人夜勤に変更する看護体制の見直しが行われた。リーダーを主に外来・病棟お互いの業務が応援できるように取り組んだ。

(2) 今後の目標

地域に周知され患者が増加し、疾患は多様である。職員の経験が様々であり対応できる人材の育成が課題と感じている。特定行為研修終了者の協力を得ながら院内教育の充実を図りたい。

【薬剤部門】 薬剤技師 木村 龍

① スタッフ

薬剤師 2名

事務補助員 1名

② 業務内容

1) 調剤業務

外来処方、原則院内処方であり外来患者への服薬指導および薬渡しは、薬局窓口で行っている。また安全性および効率化を目的としてオーダーリングシステム情報を利用した薬剤部門システムを導入し入院処方および外来処方の調剤業務を行った。

2) 病棟業務

入院患者への適正な医薬品の供給を基本に、持参薬の鑑別、服薬説明、医師や看護師等への医薬品情報提供、チーム医療への参画など医薬品に関わる業務を推進した。

3) 医薬品情報管理業務

隔月開催の薬事委員会事務局としての業務を行っており、院内採用医薬品の適正化に向けての資料の作成や院内調整を行った。あわせて月1回の薬剤部刊行紙「薬剤部からのお知らせ」・「DI ニュース」を発行した。

4) 医薬品管理業務

先発医薬品から後発医薬品への切り替えを順次行い、院内での医薬品の供給に滞りが出ないように管理を行っている。

③ 薬剤部統計

(ア)採用医薬品数 (2020年3月現在)

(単位：薬品数)

区分	先発品	後発品	後発率 (%)	総数
内用薬	101	164	61.89	265
外用薬	60	53	46.90	113
注射薬	90	125	58.14	215
保存血	20	0	0.00	20
その他	7	0	0.00	7
合計	278	342	55.16	620

(イ)後発医薬品の割合（2020年3月現在）

	1月	2月	3月	直近3ヶ月間の合計
全医薬品の規格単位数(①)	11976.00	11006.00	10146.00	33128.00
後発医薬品あり先発医薬品及び後発医薬品の規格単位数(②)	7472.00	6906.00	5555.00	19933.00
後発後発医薬品の規格単位数(③)	7100.00	6358.00	5368.00	18826.00
カットオフ値の割合(④) (②/①)(%)	62.39	62.75	54.75	59.96
後発医薬品の割合(⑤) (③/②)(%)	95.02	92.06	96.63	94.57

(ウ)外来院内処方せん枚数

(単位：枚数)

	2019年									2020年			総計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
救急科	141	175	135	173	250	169	158	174	266	267	239	173	2,320
内科	0	0	0	0	0	7	11	6	13	11	12	14	74
合計	141	175	135	173	250	176	169	180	279	278	251	187	2,394

(エ)入院処方せん枚数

(単位：枚数)

	2019年									2020年			総計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
定期処方	1	1	3	1	0	1	0	3	4	7	1	0	22
臨時処方	49	99	47	97	36	24	48	57	96	164	89	54	860
退院処方	13	13	9	13	7	2	8	5	17	16	17	6	126
合計	63	113	59	111	43	27	56	65	117	187	107	60	1008

(オ)外来注射件数

	2019年									2020年			総計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
当日注射	83	106	90	121	144	105	97	96	96	86	65	61	1150
実施済み	15	10	16	9	16	14	9	8	3	5	2	4	111
予約注射	0	0	2	0	0	11	13	11	2	15	9	5	68
合計	98	116	108	130	160	130	116	115	101	78	76	70	1298

(カ)入院注射件数

	2019年									2020年			総計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
一般注射	23	85	61	94	44	12	61	53	33	57	46	16	585
臨時注射	65	140	133	111	68	52	92	88	77	115	102	30	1073
実施済み	2	4	0	5	4	0	3	5	2	4	6	2	37
合計	90	229	194	210	116	64	156	146	112	176	154	48	1695

【放射線部】 主任放射線技師 本田 智久

1. 体制

常勤放射線技師 3 名(正規職員 2 名および県外応援職員 1 名)と、夜間応援職員(延べ 10 名)の構成で、24 時間 365 日体制で対応している。

2. 業務内容

1) 撮影業務

一般撮影装置、ポータブル撮影装置、FPD システム、80 列 CT 装置、X 線 TV 装置、外科用イメージを備え、救急外来および入院患者の撮影、さらに他院からの委託検査に対応している。

2) 画像管理業務

医療用画像管理システム(PACS)を有し、放射線画像の他、超音波画像、内視鏡画像の保管・閲覧を可能としている。さらに医療画像情報ディスク自動発行システムを有し、CD/DVD 画像出力に加え、他院からの紹介受診時の画像取り込みも実施している。また、遠隔読影依頼が可能となっており、それに応じた画像転送業務も行っている。

3) 線量管理業務

職員の被ばく線量管理：ガラスバッジおよびポケット線量計により管理している。
患者の医療被ばく線量管理：撮影条件やプロトコルを適正に設定し、撮影を実施している。
放射線による表面汚染(疑いも含む)患者に対するサーベイを実施している。

4) 装置管理業務

日常点検・定期点検を実施し、故障やその前兆の発見、画質担保と被ばく線量低減に努めている。

3. 放射線業務統計(2019 年度)

(単位：件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般撮影		154	157	147	154	181	160	177	187	172	198	183	161	2031
ポータブル撮影		20	20	23	19	20	18	23	30	33	27	18	7	258
X 線 TV	単純	1	1	0	2	0	0	1	1	0	1	0	0	7
	造影	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3
CT	単純	140	145	143	134	124	128	110	143	141	145	135	108	1596
	造影	18	32	28	26	12	12	15	22	35	17	10	18	245
外科用イメージ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
CD-R 作成		47	53	39	53	62	49	40	37	56	53	42	32	563

【検査部】 主任医療技師 結城 智子

① スタッフ

臨床検査技師 2名

② 業務内容

- ・ 検体検査（病理検査、細菌検査、一部の検体検査については外注）
- ・ 生理検査
- ・ 感染情報レポート（週報・月報）の発行

③ 2019年度検査実施件数

	2019年											2020年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
院内検査															
一般検査	57	65	52	83	61	49	54	47	71	79	103	56	777		
生化学検査	1050	1321	1432	1519	1183	1041	1265	1134	1620	1583	1194	1035	15377		
免疫検査	154	171	157	168	99	76	115	103	141	157	230	87	1658		
血液検査	164	246	225	273	240	179	220	163	249	287	249	158	2653		
凝固検査	66	59	95	85	49	64	64	76	72	68	53	55	806		
血液ガス検査	36	40	44	48	42	39	36	35	38	41	28	20	447		
生理検査(糖尿病関連)	-	-	-	-	-	1	0	4	8	7	2	5	27		
輸血関連検査	5	6	0	4	0	7	1	0	6	11	0	3	43		
感染症等その他	55	79	54	45	48	29	46	52	140	169	104	33	854		
時間外生化学検査	39	60	53	65	81	50	47	38	58	79	24	29	623		
外部委託検査															
生化学検査等	17	30	28	21	22	4	42	18	26	48	47	17	320		
細菌検査	75	120	72	162	59	80	65	68	84	114	59	35	993		
病理・細胞診検査	1	1	0	2	0	2	1	1	1	1	1	0	11		

【リハビリテーション】 主任医療技師 横山 順一、松下 祐二

施設基準：脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅲ）・廃用症候群リハビリテーション料（Ⅲ）
運動器リハビリテーション料（Ⅲ）・呼吸器リハビリテーション料（Ⅱ）

① スタッフ

理学療法士 1名

作業療法士 1名

② 業務内容

- ・外来／入院リハビリを基本とし、今年度は出前講座へも関与した。
- ・廃用症候群リハが最も多く、算定実件数：73％・延べ件数：66％を占めた。
- ・外来／入院では、入院のリハビリが多く、実件数：86％・延べ件数74％を占めた。
特に、脳血管疾患等においては、入院リハビリの延べ件数が、95％と多かった。

（以下、実績表参照）

③ 各疾患別リハビリテーション算定実績

算定 実件数	外来	入院	各リハ計
脳血管疾患等	1	6	7
廃用症候群	7	65	72
運動器	5	8	13
呼吸器	1	5	6
外来/入院計	14	84	総計 98

算定 延べ件数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2020年 1月	2月	3月	外来/入院計
脳 血 管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6
	入院	0	0	7	20	18	8	0	25	9	19	8	0	114
	各月計	0	0	7	20	18	8	0	25	9	19	8	6	120
廃 用	外来	18	16	15	23	12	18	10	12	8	0	7	8	147
	入院	43	62	52	96	44	7	60	49	86	67	27	17	610
	各月計	61	78	67	119	56	25	70	61	94	67	34	25	757
運 動 器	外来	4	0	0	0	13	11	11	7	0	7	8	5	66
	入院	0	0	0	31	0	23	0	1	28	2	4	5	94
	各月計	4	0	0	31	13	34	11	8	28	9	12	10	160
呼 吸	外来	0	4	4	6	9	4	9	8	8	8	7	8	75
	入院	6	9	0	12	0	1	0	0	3	0	0	0	31
	各月計	6	13	4	18	9	5	9	8	11	8	7	8	106
各 リ ハ 計	外来計	22	20	19	29	34	33	30	27	16	15	22	27	外来計 294
	入院計	49	71	59	159	62	39	60	75	126	88	39	22	入院計 849
	各月計	71	91	78	188	96	72	90	102	142	103	61	49	総計 1143

【栄養管理室】 管理栄養士 菅波 果歩

① スタッフ

管理栄養士 1名
 災害派遣推進員（管理栄養士） 1名
 調理業務（外部委託） 5名

（ 管理栄養士 1名
 栄養士 1名
 調理師 2名
 調理員 1名 ）

令和2年3月16日時点

② 基本方針

- ・安全でおいしい食事の提供
- ・患者の病状に応じた栄養管理
- ・適切な栄養情報の提供

③ 給食管理（提供食事数）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
患者食	一般食	114	172	126	193	107	111	131	130	176	245	175	66	1746
	特別食(加算)	17	75	15	47	20	11	42	56	109	322	130	112	956
	特別食(非加算)	34	59	29	161	36	16	51	51	82	10	70	0	599
	経管栄養	14	0	0	0	0	0	11	22	13	0	0	0	60
	計	179	306	170	401	163	138	235	259	380	577	375	178	3361
検食		262	270	260	266	268	262	268	260	269	269	254	268	3176
予備食		177	184	175	177	183	174	179	175	179	178	170	180	2131
合計		618	760	605	844	614	574	682	694	828	1024	799	626	8668

* 特別食：心臓食・糖尿病食・潰瘍食など

(特記事項)

- ・システムのマスタ登録内容を変更したことで、形態調整食や常食でも条件を満たすことで特別食加算を算定できるようになり、加算対象の幅が広がった。

④ 栄養管理（栄養指導件数）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来	初回	0	0	1	1	1	0	2	1	2	0	1	0	9
	再来	2	1	1	1	1	0	1	0	0	1	2	2	12
	非加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
入院	初回(加算)	2	2	0	2	1	1	1	0	1	1	1	1	13
	再来(加算)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	1	4
	非加算	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4
合計		4	5	2	5	5	1	4	1	3	2	6	7	45(うち非加算7)

(特記事項)

・全体的に指導件数は昨年より増加している。特に糖尿病外来の患者の栄養指導件数が増加した。11月の病院祭で行った糖尿病教室の効果かと思われる。

⑤ その他

1) 嗜好調査の実施

実施期間：令和元年6月8日から12月20日

実施方式：実施期間中に入院し食事を3食(1日)摂取した患者に記載を依頼した。

また、記載が難しい患者には管理栄養士が聞き取りを行い回収した。

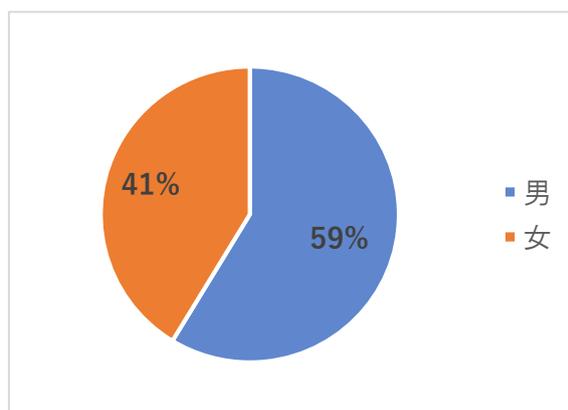
対象者：計46名

実施結果：2018年度回収率が低くなってしまったことから、2019年度より直接聞き取りを行う方式に変更した。また、実施期間も約半年と長めにした。その結果、より多くの回答を得ることができた。集計結果は栄養管理委員会で報告し院内掲示をした。

【内訳】

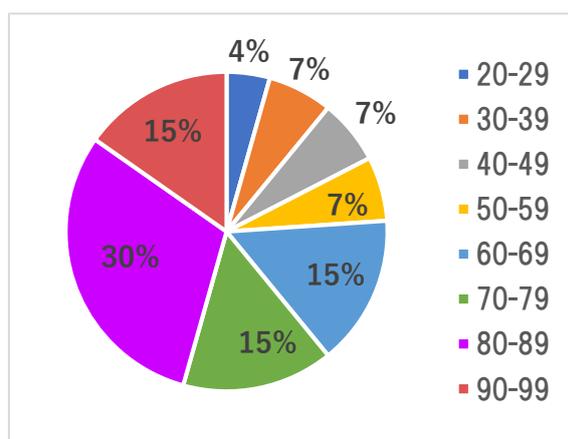
○性別

性別	人数(人)
男	27
女	19
総計	46



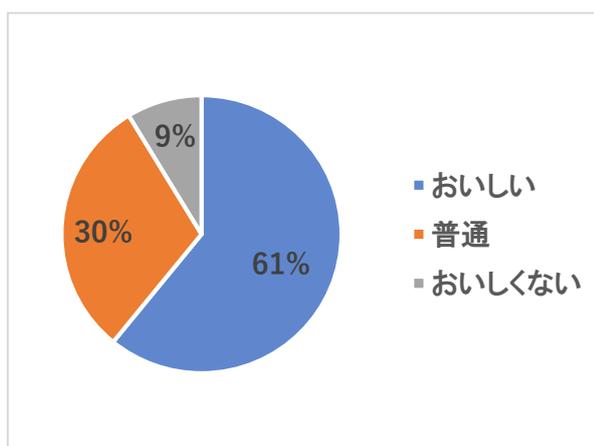
○年代

年代	人数(人)
20-29	2
30-39	3
40-49	3
50-59	3
60-69	7
70-79	7
80-89	14
90-99	7
総計	46



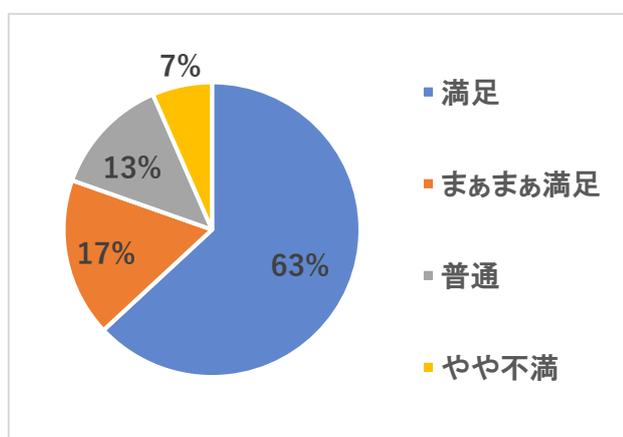
○味について

病院食の味	人数
おいしい	28
普通	14
おいしくない	4
総計	46



○満足度

満足度	人数
満足	29
まあまあ満足	8
普通	6
やや不満	3
総計	46



2. 委員会活動

(1) 院内設置委員会

(1) 法令等によるもの

i. 運営会議（第4木曜日）

目的：病院業務全般の円滑な推進を図る。

構成員：院長、診療担当医、看護部長、薬剤部門長、臨床検査部門長、放射線部門長、リハビリテーション部門長、栄養部門長、事務長

ii. 医療安全管理委員会（第4木曜日）

目的：医療事故を防止し、安全かつ質の高い医療の提供体制を確立する。

事故防止のための基本的な考え方

構成員：院長、診療担当医、診療部長、放射線技師、検査技師、理学療法士、外来師長、病棟師長、医療安全管理者、医薬品安全責任者、医療機器安全責任者、管理栄養士

iii. 院内感染対策委員会（第4木曜日）

目的：感染症の予防対策等を検討する。

構成員：院長、診療担当医、看護部長、薬剤部門長、臨床検査部門長、放射線部門長、リハビリテーション部門長、栄養部門長、事務長、病棟看護師長、外来看護師長

iv. 薬事委員会（隔月第4木曜日）

目的：医薬品に関する業務の円滑な推進を図る。

構成員：院長、診療担当医、看護部長、薬剤部長、看護部長、臨床検査技師、放射線技師、事務長

v. 褥瘡対策委員会（第2木曜日）

目的：褥瘡の予防対策等を検討する。

構成員：診療担当医、看護部長、病棟担当看護師、薬剤師、栄養士、事務職員

vi. 輸血療法委員会（年2回）

目的：輸血及び血液製剤管理運営の推進を図る。

構成員：院長、診療担当医、看護部長、薬剤部門長、臨床検査部門長、臨床検査技師、事務長

vii. 医療ガス安全管理委員会（年1回）

目的：医療ガス（診療の用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医用圧縮空気、窒素等をいう。）設備の安全管理を図り、患者の安全を確保する。

構成員：院長、診療担当医、看護部長、看護師長、薬剤部長、事務長

viii. 栄養管理委員会（年2回）

目的：食事の質の向上及び患者サービスの向上を図る。

構成員：診療担当医、看護部長、病棟看護師、栄養管理室代表者、調理師、委託事業者、

事務職員

ix. 防火・防災対策委員会（年2回）

目的：防火・防災管理の徹底と災害発生による被害を最小限に防止する

構成員：院長、診療担当医、看護部長、薬剤部長、臨床検査部門長、放射線部門長、
リハビリテーション部門長、栄養部門長、事務長

(2) 病院独自に設置しているもの

i. セーフティマネジメント委員会（第1火曜日）

ii. 感染ラウンド

iii. 医療情報システム委員会（第3木曜日）

iv. 輸血療法委員会（年2回）

v. 看護部看護師長会（毎週1回）

（ア）看護実践状況の共有

（イ）職員の実践状況の共有

（ウ）課題化と対策の検討

vi. 看護部教育委員会（毎月1回）

（ア）現任教育の企画運営

（イ）次年度の新採用者及び現任教育計画立案

vii. 看護部記録員会（毎月1回）

（ア）看護記録記載基準マニュアルの見直し

viii. 看護部業務委員会（毎月1回）

（ア）看護基準・看護手順の見直し

（イ）外来施設の環境整備

3. 地域貢献

① 在宅復帰支援

急性期治療終了後、在宅復帰に不安のある患者に対して、医師、看護師をはじめ、リハビリスタッフ等が協力し、在宅復帰を支援する。

② 在宅診療

在宅復帰後は、地域の医療機関（かかりつけ医）からの依頼に基づき、訪問診療・訪問看護等を実施する。

訪問診療・看護実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	2	2	2	2	3	4	4	4	4	3	4	4
件数	12	10	11	11	8	19	27	20	16	14	16	19

※住居は檜葉町3名・富岡町1名・浪江町1名であった。

③ 地域包括ケアの推進支援

地域行政、地域包括支援センター、医療機関、介護福祉施設と連携し、地域包括ケアの一環として未治療者・重症化予防対策や認知症への対応を支援する。

認知症初期集中支援チーム員会議出席

4月	1
5月	0
6月	0
7月	1
8月	2
9月	1
10月	1
11月	0
12月	1
1月	0
2月	1
3月	0

双葉郡及び町村会議等出席

4月	3
5月	3
6月	3
7月	0
8月	0
9月	2
10月	2
11月	5
12月	2
1月	3
2月	5
3月	1

※ケア会議

※地域包括ケア会議等

※糖尿病重症化予防会議（相双保健福祉事務所）

※双葉郡等避難地域医療等提供体制検討会

④ 健康増進

健康増進支援関連の活動実績

○実施した対象は3町（広野町・檜葉町・富岡町）、1企業、1施設。

○計画では42回を予定していたが新型コロナウイルス感染対策で37回となった。

		広野町	檜葉町	富岡町	川内村	大熊町	双葉町	浪江町	葛尾村	介護施設	企業
リハビリ		5月15日	9月12日	6月18日							
		5月17日	9月19日	7月11日							
		5月21日	10月25日	8月22日							
		6月10日		1月14日							
		6月11日									
		6月12日									
		6月14日									
		7月8日									
		7月9日									
		7月10日									
		7月12日									
		7月16日									
		7月22日									
		9月30日									
	薬剤			2月21日	8月1日						
				8月6日							
				8月8日							
				1月7日							
栄養			11月20日	12月26日							5月27日
			12月18日	12月24日							
			12月20日	3月12日							
			2月13日	3月17日							
糖尿病・生活習慣病	3月19日										
疾病の理解				3月19日							1月31日
				3月24日							
感染				2月13日						5月28日	
				3月10日							

出前講座・事業協力

黄色 実施済

新型コロナウイルス感染対策のため中止

⑤ イベント開催 「病院祭」

地域との交流イベントとして「病院祭」を開催

日時：平成 31 年 11 月 4 日（月・祝）

内容

- ・ 講演「笑いと健康 ～笑って認知症・生活習慣病予防」
講師 大平哲也教授（福島県立医大）
- ・ 専門医による糖尿病教室
- ・ 健康チェックコーナー
- ・ 多目的ヘリコプター、救急車見学コーナー
- ・ 白衣試着体験
- ・ 地元野菜販売コーナー など

開催結果

- ・ 富岡町、楡葉町、いわき市ほか市町村より、61 名の来場者があり、各種コーナーの設置により、住民等の参加を図ることができた。
- ・ ノート等グッズ配布により、病院の認知度向上に資することができた。

感想等（アンケートより抜粋）

- ・ とても楽しい講演で、笑うことの楽しさを学んだ。
- ・ 糖尿病についての話を楽しく聞け、勉強になった。
- ・ 健康チェックにより今まで以上のことが分かり、健康に気をつけたいと思った。
- ・ ヘリコプターの座席に座ったり、普段できないことを体験できて良かった。



「講演」の様子



糖尿病教室



「健康チェック」と「白衣試着」コーナー



ヘリコプター見学

⑥ その他の活動 「クリーンマンデー」

病院及び周辺の美化活動として、毎月第一月曜、ゴミ拾い・草刈り等を実施。



4. 教育・学術研究

① 教育実績

令和元年度 新人看護職員教育実績

月	日	時間	内容	講師	
4月	2～5日	9時30分～16時	新入職オリエンテーション	各担当者	
5月	31日	15時～16時30分	フィジカルアセスメント	認定看護師	飯島
6月	6日	10時～17時	静脈注射	矢澤	林崎
	18日	15時～16時	転倒転落	パラマウントベッド	
	24日	15時～16時	フォローアップ	副院長	
7月	4日	14時～15時	ポンプ	テルモ	
	26日	15時～16時	看護倫理 身体抑制	志賀 林崎	
8月	7日	15時～16時	災害看護	西尾	丸山
	20	15時～16時	DVT	宮川医師	
10月	7日	15時～16時	フォローアップ	教育委員	
	16日	15時～16時	心電図	矢澤	
11月	18～21	15時～16時	概念化能力	副院長	
	27日	14時～16時	医療機関における新型インフルエンザのポイント	福島医大感 染制御室	中村究先生
12月	2日	15時～16時	ケーススタディ	菅波	
1月	16日	15時～16時	呼吸器装着中の看護	井手	
2月	14日	15時～16時	ノロウイルス対応	感染委員	林看護師
	21日	15時～16時	ラダーシュミレーション（症例発表）	副院長・教育委員	
3月	6日	15時～16時	画像診断を看護に活かす	本田	
		16時～17時	リフレクション	志賀	

令和元年度 現任教育実績

月	日	時間	内容	講師	
4月	22～26	15時～16時	看護展開	副院長	志賀
5月	13,15,16	15時～16時	フィジカルアセスメント	丸山・井手	
6月	3,19,27	15時～16時	フィジカルアセスメント	丸山・井手	
7月	1,17,25	15時～16時	フィジカルアセスメント	丸山・井手	
8月	7日	15時～16時	災害看護	丸山・西尾	
	20日	15時～16時	DVT	宮川医師	
10月	22日	15時～16時	褥瘡勉強会：褥瘡予防	褥瘡委員	菅波
	23日	15時～16時	医療安全：ダブルチェック	安全管理者	木村
11月	18～21	15時～16時	概念化能力	副院長	
	27日	14時～16時	医療機関における新型インフルエンザのポイント	感染制御室	中村究先生
2月	14日	15時～16時	感染対策：ノロ対応	感染担当	林看護師
	21日	15時～16時	ラダーシュミレーション（症例発表）	副院長・教育委員	
3月	17日	15時～16時	医療安全：医薬品の取り扱い	薬剤科	伴場・木村
	18日	15時～16時	褥瘡勉強会：褥瘡の治療薬	薬剤科	木村

② 発表・講演

No.	発表者	タイトル	学会名	開催地	開催日
1	志賀 永一	新病院開院に向けた検査室の取り組み	第51回福島医学検査学会	郡山(南東北総合卸センター組合会館)	2019年6月1日～2日
2	志賀 美和	糖尿病患者の行動変容に結びついた要因	いわき糖尿病療養指導学術講演会	いわき市	2019年7月6日
3	谷川 攻一	緊急被ばく医療の歴史から学ぶ～私たちの備えと心構え～	第77回新潟救急医学会	新潟(新潟大学)	2019年7月27日
4	谷川 攻一	東日本大震災と福島原子力発電所事故被災地の医療再生の歩み	第38回山陰救急医学会学術集会	島根県江津市	2019年8月31日
5	谷川 攻一	福島第一原子力発電所事故に学ぶ：医療者へのメッセージ	第8回日本放射線看護学会学術集会	福島市	2019年9月28日
6	菅波 弘子	救急病院における在宅療養生活のあり方を考える	福島県自治体病院学会	田村市	2019年11月9日
7	Tanigawa K	Roles of critical care medicine in radiological emergencies -Advances and challenges for acute radiation syndrome-	The 4th International Symposium of the Network-type Joint Usage/Research Center for Radiation Disaster Medical Science	広島市	2020年2月12日

③ 論文

No.	著者	タイトル	掲載誌	出版年	巻(号)	ページ (e: ネット閲覧可)
1	Ohtsuru A, Midorikawa S, Ohira T, Suzuki S, Takahashi H, Murakami M, Shimura H, Matsuzuka T, Yasumura S, Suzuki S, Yokoya S, Hashimoto Y, Sakai A, Ohto H, Yamashita S, Tanigawa K, Kamiya K	Incidence of Thyroid Cancer Among Children and Young Adults in Fukushima, Japan, Screened With 2 Rounds of Ultrasonography Within 5 Years of the 2011 Fukushima Daiichi Nuclear Power Station Accident	JAMA Otolaryngol Head Neck Surg	2019	145	4-11
2	Ohira T, Ohtsuru A, Midorikawa S, Takahashi H, Yasumura S, Suzuki S, Matsuzuka T, Shimura H, Ishikawa T, Sakai A, Suzuki S, Yamashita S, Yokoya S, Tanigawa K, Ohto H, Kamiya K	External Radiation Dose, Obesity, and Risk of Childhood Thyroid Cancer After the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident: The Fukushima Health Management Survey	Epidemiology	2019	30	853-860
3	Suzuki K, Kusunoki S, Tanigawa K, Shime N	Comparison of three video laryngoscopes and direct laryngoscopy for emergency endotracheal intubation: a retrospective cohort study	BMJ Open	2019	30	e024927
4	谷川 攻一	大災害への対応と福島原発事故から学ぶ：危機的状況に備えて	日本病院会雑誌	2019	66	71-82
5	谷川 攻一	緊急被ばく医療の歴史	救急医学	2019	43	634-644
6	谷川 攻一	ER Design File 福島県ふたば医療センター附属病院	救急医学	2019	43	1390-1395
7	谷川 攻一	福島県双葉郡の医療体制の現在と課題、そして将来	日本医事新報	2019	4968	60-62
8	風間 咲美, 谷川 攻一, 田勢 長一郎	福島県の原子力発電所事故避難地域に対するふたば救急総合医療支援センターの医療支援活動	公衆衛生	2019	83	560-567
9	宮川 明美	福島第一原子力発電所事故からの復興を医療面から支えるために-ふたば医療センターのこれまでとこれから-	福島県保健衛生雑誌	2019	35	2-7

5. 主な行事・視察・来訪

① 2019 年度視察等対応

	国	県	他自治体	医大	町村等	消防	施設等	企業・団体	大学等	計
4月	1	5	1	1	3	2	0	1	1	15
5月	0	2	1	1	4	0	0	3	2	13
6月	1	4	1	3	5	1	0	5	0	20
7月	1	4	0	3	1	0	0	2	2	13
8月	4	2	1	2	2	0	0	2	3	16
9月	1	3	2	2	2	0	0	4	2	16
10月	0	2	0	3	2	2	0	2	2	13
11月	1	4	0	0	0	0	0	0	0	5
12月	1	1	1	1	0	1	0	2	1	8
1月	1	3	0	1	0	0	0	4	1	10
2月	0	0	0	3	3	1	0	0	3	10
3月	0	0	1	1	3	0	0	1	2	8
計	11	30	8	21	25	7	0	26	19	147

2019年 主な行事・視察・来訪

- 4月5日 (金) 富山大学見学
4月18日 (木) 原子力災害現地対策本部医療班来訪
4月22日 (月) 厚生労働省吉田医政局長視察
5月17日 (金) 井出孝利副知事視察



- 5月21日 (火) イノベーションコースト企業ツアー



- 5月27日 (月) 東京都復興支援担当者来訪
5月28日 (火) 東京都被災地支援職員見学
5月31日 (金) 学生見学(早稲田大学)



- 6月19日 (水) 大熊町長来訪
 6月26日 (水) 看護協会視察
 復興庁職員視察
 7月18日 (木) 復興庁視察
 7月23日 (火) 東京事務所長視察



- 7月30日 (火) フクバスツアー



- 7月31日 (水) 学生見学(名古屋大学医学部留学生)

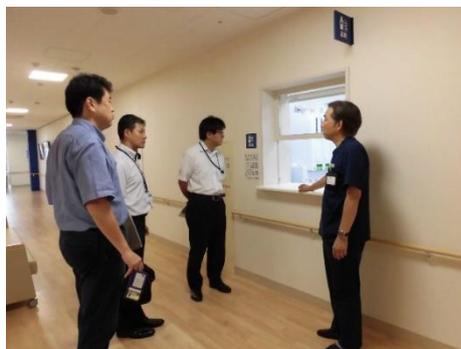


- 8月2日 (金) 復興庁安藤大臣政務官視察
 8月4日 (日) 厚生労働省職業安定局職員視察
 8月5日 (月) 公明党大阪府議団視察

- 8月8日 (木) 笹川財団サマーセミナー
 8月19日 (月) 福島東高等学校視察
 8月22日 (木) 島根県知事視察



- 8月23日 (金) 内閣府(原子力防災担当)視察



- 8月26日 (月) 福島県医療関連産業高度人材育成プログラム視察
 8月27日 (火) 学生見学(福島医科大学医学部・看護部)



- 8月29日 (木) 復興庁古橋参事官視察
 9月20日 (金) 関西大学視察
 東稜高等学校見学

9月25日 (水) 宮崎県消防学校見学



9月27日 (金) 復興庁交付金班郷参事官視察
日本放射線看護学会視察
東京事務所長視察



10月7日 (月) 長岡看護大学見学
避難者支援課職員視察
多数傷病者対応訓練



10月8日 (火) 福島東高等学校地域社会見学

10月17日 (木) 米国保健省次官来訪

- 10月31日 (木) 県庁避難者支援課・埼玉県避難者支援団体視察
- 11月18日 (月) 鈴木教育長視察
- 12月6日 (金) 広島県呉市保健所来訪
- 12月16日 (月) 相双地方振興局（四倉高等学校バスツアー）
- 12月23日 (月) 双葉警察署感謝状贈呈式
- 12月24日 (火) 復興庁(副大臣)視察



2020年

- 1月14日 (火) 福島イノベコースト構想推進機構視察
- 1月17日 (金) 東北医科薬科大学見学
- 1月20日 (月) 復興庁参事官視察
- 1月30日 (木) 四倉高等学校バスツアー
- 2月3日 (月) 大分県中津市研修医見学
- 2月26日 (水) 学生見学(立教大学コミュニティ福祉学部)

IV 今後の目標と展望

双葉郡における医療の課題は二つの側面をもっています。一つは「原発事故後の復興を目指す被災地」、もう一つは「超高齢化社会と医療過疎に悩む地域」です。幹線道路の交通量の増加は著しく、交通事故も増えており、また、復興関連の労働関連事故も増えていきます。一方、帰還住民の多くは高齢者であり、様々な持病をもつ多数薬剤を服用中の住民が増えています。復興事業従事者にも中高年の単身赴任者が多く、生活習慣病、特に糖尿病への対応が課題の一つになっています。

私たちの任務は、住民の生命と健康を守ることです。限られた医療資源と地理的に不利な環境で住民の生命と健康を守るには、ICT や多目的医療用ヘリなど様々な術を有効活用する必要があります。また、病気の重症化の予防によって、救急医療のニーズそのものを減ずる努力も必要です。そこには訪問看護や訪問リハなどハイリスク患者をターゲットとした、専門職によるプロアクティブな介入が不可欠です。さらに住民（ポピュレーション）を対象とした健康増進活動は疾病予防の要となります。

最大の課題はスタッフの安定的確保です。浜通りの中でも双葉郡は震災前から医療スタッフの不足に悩んできた地域です。医療スタッフを引きつけるための魅力をもつこと、彼らがより快適に暮らせる生活環境の整備が重要です。また、福島医大をはじめ、域外の中核医療機関との連携は不可欠であり、キャリアアップに配慮した循環型人材配置など斬新な試みが求められます。さらに、次世代を担う医学生・医療系学部学生が双葉郡の医療に興味をもってもらえるよう医育機関との連携も重要です。

私たちの経験が、同様の課題を抱える他の地域の参考になればと期待しています。

福島県ふたば医療センター附属病院
病院長 谷川攻一

福島県ふたば医療センター附属病院

〒979-1151 福島県双葉郡富岡町大字本岡字王塚 817-1

電話 (0240) 23-5090

FAX (0240) 23-5091

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/futaba/>

* 報告書のデータ、記載内容の使用については当院事務へ問い合わせてください。